

第3章

【問題3-1】②：(ア) 正 (イ) 誤

- ア) 問題文の通り。
イ) 収益は原則として実現主義により計上される。

【問題3-2】①：(ア) 正 (イ) 正

- ア) 問題文の通り。
イ) 問題文の通り。

【問題3-3】④：(ア) 誤 (イ) 誤

- ア) 損益計算書は、一定期間の経営成績を表すものである。
* 一定時点の企業の財政状態を示すものは貸借対照表。
イ) 売上高と販売費及び一般管理費の対応は期間的対応。
* 個別的対応：売上高と売上原価のように因果関係にもとづき対応関係が個別にわかるもの。
* 期間的対応：個別的対応が見出しにくく、その期間に発生した費用を同期間の収益と対応させるもの。

【問題3-4】③：(ア) 発生主義 (イ) 3月

- ア) 費用は発生主義の原則により計上される。
イ) 3月に発生した(使用した)電気代は3月の費用として計上される。

【問題3-5】④：(ア) 誤 (イ) 誤

- ア) 費用は、原則として発生主義により計上される。
イ) 売上高と売上原価の対応は個別的対応にあたる。

【問題3-6】④：(ア) 誤 (イ) 誤

- ア) 商品の販売代金の総額を売上高という。
* 売上総利益：本業の売上高から売上原価を引いた利益。
イ) 粗利益は売上総利益のことを指す。
* 売上総利益から販売費及び一般管理費を差し引いた金額は営業利益。

【問題3-7】①：(ア) 正 (イ) 正

- ア) 問題文の通り。
イ) 問題文の通り。
* 例：100万円で製造した製品(100万円で仕入れた商品)の販売に苦戦して原価以下の90万円で販売した場合、売上総利益(粗利)は△10万円となる。

【問題3-8】②：(ア) 正 (イ) 誤

- ア) 問題文の通り。
イ) 保険料は販売費及び一般管理費に該当する。

【問題3-9】②：(ア) 正 (イ) 誤

- ア) 問題文の通り。
イ) 研究開発費は販売費及び一般管理費に該当する。

【問題3-10】 【問1】④：3,500 【問2】②：385

【問1】 売上高3,500 = 売上原価2,450 (以下参照) + 売上総利益1,050

【問2】 営業利益385 = 売上総利益1,050 - 販売費及び一般管理費665 (以下参照)

売上高	3,500	←合計
売上原価	2,450	*1
売上総利益	1,050	
販売費及び一般管理費	665	*2
営業利益	385	←差額

*1 商品

商品期首棚卸高 200	売上原価 2,450
当期商品仕入高 2,400	商品期末棚卸高 150

*2 給料480 + 退職給付費用30 + 貸倒引当金繰入額10 + 減価償却費90 + 販売手数料55

* 有価証券売却損と支払利息は営業外費用。

【問題3-11】⑤：イエオ

- ア) 社債利息：営業外費用
イ) 租税公課：販売費及び一般管理費
ウ) 有形固定資産売却損：特別損失
エ) 保険料：販売費及び一般管理費
オ) 退職給付費用：販売費及び一般管理費

【問題3-12】 【問1】③：(ア) 減価償却費 (イ) 社債利息 【問2】③：アエオ

- ア) 減価償却費：販売費及び一般管理費
イ) 社債利息：営業外費用
ウ) 有価証券売却損：営業外費用
エ) 保険料：販売費及び一般管理費
オ) 退職給付費用：販売費及び一般管理費

【問題3-13】①：(ア) 社債利息 (イ) 営業外費用

- 自社が発行した社債に対して支払う利息を社債利息といい、営業外費用に計上される。
* 他社が発行した社債から受け取る利息を有価証券利息といい、営業外収益に計上される。

【問題3-14】③：(ア) 誤 (イ) 正

ア) 営業外費用とは、本業以外の財務活動や投資活動などによる費用を指す。

* 臨時的に発生した費用は特別損失に計上される。

イ) 問題文の通り。

【問題3-15】 【問1】①：45 【問2】④：715

ア) 営業外費用45 = 支払利息30 + 社債利息15

イ) 経常利益715 = 営業利益700 + 営業外収益60 (以下参照) - 営業外費用45

営業利益	700	
営業外収益	60	= 有価証券利息25 + 受取配当金35
営業外費用	45	
経常利益	715	← 差額

【問題3-16】③：(ア) 誤 (イ) 正

ア) 固定資産売却益は特別利益に含まれる。

イ) 問題文の通り。

【問題3-17】 【問1】⑤：545 【問2】②：515

ア) 営業利益545 = 経常利益530 + 営業外費用50 (以下参照) - 営業外収益35 (以下参照)

イ) 税引前当期純利益515 = 経常利益530 + 特別利益30 (以下参照) - 特別損失45 (以下参照)

営業利益	545	← 差額
営業外収益	35	= 有価証券利息10 + 受取配当金25
営業外費用	50	= 支払利息15 + 有価証券評価損35
経常利益	530	
特別利益	30	= 固定資産売却益30
特別損失	45	= 減損損失40 + 投資有価証券売却損5
税引前当期純利益	515	← 差額

【問題3-18】 【問1】 ③ : 830 【問2】 ⑤ : 820

- ア) 経常利益830 = 営業利益850 + 営業外収益25 (以下参照) - 営業外費用45 (以下参照)
 イ) 税引前当期純利益820 = 経常利益830 + 特別利益30 (以下参照) - 特別損失40 (以下参照)

営業利益	850	
営業外収益	25	= 有価証券利息15 + 受取利息10
営業外費用	45	= 支払利息20 + 有価証券評価損25
経常利益	830	← 差額
特別利益	30	= 投資有価証券売却益30
特別損失	40	= 減損損失35 + 固定資産売却損5
税引前当期純利益	820	← 差額

【問題3-19】 ② : (ア) 正 (イ) 誤

- ア) 問題文の通り。
 イ) 税効果会計により貸借対照表に計上されるのは繰延税金資産と繰延税金負債。

【問題3-20】 ① : (ア) 正 (イ) 正

- ア) 問題文の通り。
 イ) 問題文の通り。
 * 法人税等調整額は繰延税金資産が計上される場合はマイナス、繰延税金負債が計上される場合はプラスとなる。

	繰延税金資産 が計上される場合	繰延税金負債 が計上される場合
税引前当期純利益	1,000	1,000
法人税等	400	400
法人税等調整額	△180	180
法人税等合計	220	580
当期純利益	780	420

【問題3-21】 ③ : 3つ

問題文のうち税効果会計の適用により計上されるのは「繰延税金負債」「繰延税金資産」「法人税等調整額」の3つ。

【問題3-22】 ⑤ : イエオ

- ア. 一定時点における企業の経営成績を表すものは貸借対照表。
 イ. 問題文の通り。
 ウ. 費用は発生主義により計上される。
 エ. 問題文の通り。
 オ. 問題文の通り。